

「馬鹿にしが乗れない 乗り物」

私の父はバイク乗りでした。自分も大人になったらバイクに乗るものと当然のように考えていて18歳の時に中型自動二輪の免許を取り、兎のお下りのバイクを手に入れました。そのバイクはふじさき歯科医院に入社する1週間前に事故に遭い廃車。私はふじさき歯科へ足を引き摺りながら当時は隠していました(の)入社となりました。

ここで諦めれば家族は安心したのでしょうか、子供の頃から憧れていた物つて簡単に嫌いになれるものではないですね。気が付くと仕事をしながら大型二輪の教習に通っていました。

けれど数年はバイクを所有できず、将来「若い頃はバイクに乗っていた」なんて言うおばさんになるのかなあと思いながら日々を過ごしていました。ある日試乗したバイクに心を打ち抜かれ、私の憂鬱を救ってくれるのはこれしかない」と即購入してしまいました。人生で不思議な

もので、お付き合いしていた人もバイクに乗る方で、デートはいつもバイクで集合、バイクで解散。これじゃあ一緒に居られる時間が少ないという事で一緒に住む、いや、結婚しようかとトントン拍子で結婚が決まりました。子供の頃から憧れていたバイクに人生を動かしてもらえた事、とても不思議な気持ちになります。

結婚した今はというと今年1月にバイクを降りてしまいました。大きな理由は、もし子供を授かったら車が必要になるという事。授かったから慌てて準備するなら今のうちにと夫婦で話し合つてバイクを手放し車を購入しました。バイクを売った時は親友を置いてけぼりにしたような気持ちになり、申し訳なさで行つていました。有難い事に見に行つていました。新しい手が見付かったようで安心しました。だって私のバイクは世界一格好良いから。どうかあのバイクが幸せに走り回っていますようにと、そつと祈っています。

車での生活はというと「楽」の一言です。助手席専用の上、暑くない、寒くない、雨に濡れない、荷物が積めるから買い物出来る、おしゃれ

な服やヒールが履ける、など驚きでいっぱい。購入したての頃は憎かった車も、今は愛着が湧いてきました。けれど車で走っていると目に付くはやつぱりバイク。次はこんなバイクにしようかなんて会話ばかりです。ライダーは生身を晒しているのに、風の匂いや雨、うだる暑さや凍つつく寒さ、現地の匂いや空気が変わる瞬間、道路の危険を常に感じています。そしてバイクと仲良くしないと痛い目を見ます。けれど、体ひとつ全身で感じながらどこまでも連れてつてくれる相棒がバイクです。そんなバイクに魅了されてしまいました。いつかまた「バイクは馬鹿にしが乗れない乗り物だから」と笑いながらバイクに跨っている日を夢見て。それまでは車をめいっぱい可愛がつてあげなす。そのためにますへーパードライブ講習を受講だ!

歯科衛生士 君島

